火災シーズン来る

八割が不注意から起る

いよいよ正月も間近になり師走の月に入りました。師走と火事、あまり有難くない関係ですが、日本では昔から因縁が浅からぬ仲で、火魔が荒れ狂うのはこの十二月とされています。年末年始保安強調週間も一日から準備期間に入り、十五日から実施されますが、この中にも火災防止運動が挙げられています。また国でも全国的に十一月二十六日から防火週間に入っています。とくに集団社宅の多いわれわれも心をゆるめず火災防止に努めなければならないときです。

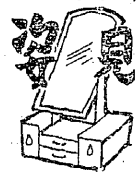
今年は新記録か

「今年は火事が一段と多く、新記録をつくりそうだ」と国家消防本部では有難くないことを云っています。同本部の調べでは今年になり火事は全国で一万八千件、最近までに焼けた建物は全国で合計一万七千戸、この被害総額二百十億というばう大な巨額に達しています。これは昨年の同期にくらべると件数で十四%、戸数で十九%も増えています。また福岡県を例にとりますと本年一月から十月末までの火災九六八件で死者一七人、負傷者二三一人、損害は約五億七千七百万となっています。

情ない母親

本所　野田

「砂川の基地反対にどうして労働者が応援するの」「学生と云うのは大学生だろう。こんな大勢の人が砂川の人と一緒になって反対するのは政府が悪いからだろう」「なぜ政府はこんなに多くの人の反対があるのに、砂川を測量するのだろうか。お巡りさんはみんなを守ってくれる人だとお母さんは云ったけれど、なぜ砂川の人達や労働組合の人や大学生までコン棒でなぐりつけたりするの。基地反対をすることは悪いことだろうか」



「スト規制法反対とは何のこと」といったふうに、五年生の男の子は母である私が返事に困る程つぎつぎと質問を発する。私どもがニュースを聞いていると、この子にとって不思議なことがつぎつぎと放送されるのである。世の中の面倒な問題はますます多くなるのに、それへの判断となると母親には全く自信がない。どうにかこうにかあやふやな説明はしても、子供相手では大人のそれとは大分勝手が違うのである。「それはどうして」とか「なぜそんなことを政府はするのか」とか「政府とは鳩山さんだろう、変えたらいゝおやないか」というのに対し「お父さんにきいてごらん」或はまた「あなたが今に大人になったら解るよ」などといって逃げている。これでは如何にも情ない母親である。世の中の、ことに私達にとって大切な問題や事件について子供にきかれたら、とにかくつぎのように云いたいものである。「お父さんや先生はそれについてどんなお考えか知らないけれど、お母さんとう思います……」と。すくなくともある程度子供がなつとくしてくれるような自分の判断、自分の見識を持っている母親でありたい。

そうしたしっかりした判断力や見識を養うためには、私どもはつねに勉強しなければならない。ただ家にとぢこもり家計のやりくりにあくせくするだけでなく読み物を選ぶとともに多くの会議等にもできるだけ出席して、あらゆる人と話合いの機会をつくり自分の知識を高めることが大切ではないかと思う。

社宅はとくに注意を

とくに大牟田地区は集団社宅の多い関係で各人の注意にまつほかはないのですが、これについて市消防署では「火災の八〇%が不注意からおこっている点からみて精神運動でやるほかはない。また万一火を出した場合はできるだけ通報を早くして、被害を最小限にくいとめてもらいたい」といっています。

現在同署の消防自動車は十一台で国家消防本部の消防基準に定める二十六台の六割にみたないが（消防団のを合せると二十二台）いままで消防自動車の数が足りなかったほどの大火はなく、密集地帯の小さな火事をどう防ぐかが問題になっているといわれています。

三鉱でも近くは三作熔接工場の大火、宮の原診療所の火災などいたるところに火魔は一寸した油断から荒れ狂っています。

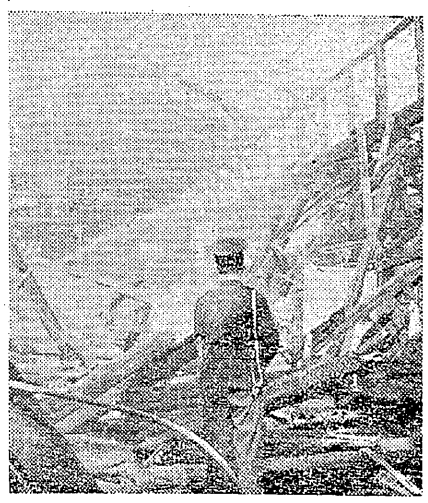
家族中が注意しあう

とくに集団社宅に住むわれわれとしては、自分の家からの不注意から隣近所まで焼けうせることは非常にはつきりしていますし、とくに寒さに向うおり、火を使用する機会も多いので十分注意を換起することが大切。

また自分一人が心掛けても家族のみんなが、一つの気持になって注意し合わなければ効果は望めないことも考え、子供にいたるまでよく注意し、教育しなければならないのです。

毎日毎日生活に追われどうしのわれわれの上に、火災による災厄でも降ってきたら、目もあてられない惨状になるのは判りきっていますし、生活はどうにもならなくなってしまいます。

火災シーズンの到来に備えていま一そうお互いが火の始末に神経をとがらせて行くように心掛けましょう。



昭和廿八年の三作熔接工場の火災

知っていますか

ヒビしもやけ

あかぎれとしもやけの防ぎ方と治療法、この二つは同じ原因でできます。あかぎれはヒフの弾力が少くしもやけによる膨脹に絶えぎれずヒビ割れるだけでどちらかというと大人に多く、しもやけは子ども、ことに女児に多いものでヒフのウツ血から起ります。晩秋から冷熱交代浴で血の循環をよくします。

熱湯と冷水を二つの金だらいに用意し、手や足を交互につけて十数分間位で、まっ赤に火照ったところでよく水分を拭いとり、良質のコールド・クリームかラノリンかできればビタミンA・D入りのクリームをすりこみます。食物はバター、卵、いわし、肝臓といった油のこいものをとります。冬にはなべものが何よりもいい食事です。毎冬しもやけで困る方は体質の遺伝もあるのですが、ビタミンB群（とくにB6）を内服するのも一法でしょう。しもやけはくずれるほどになったら、薬局で局方漿そうこうを処方してもらい、一日に二、三回塗ります。

頑固なしもやけには、ビタミンEの内服がとくに有効です。最初の日に三〇〇ミリ、以後毎日四〇〇ミリぐらいの量を快くなるまでつづけます。

映画招介

洪水の前

現在の青少年が何を考え、何を求めているか、それは大人の理解を越えた謎である。混沌たる現代の不安が彼等の青春を洪水のように押流そうとしている。世界を破滅に導こうとするこの恐るべき洪水をくい止める術が出来ないのかその問題を我々の前に大きくかゝげているのである。

【物語】ダニエル、ジャン、リシャール、フイリップの四人の少年に、リリアンヌという女の子をまじえた五人は仲のよい学生グループである。彼等は戦後の混乱した不安な社会状態の中に成長した子供達である。

彼等はダニエルの家へ集り、ハワイ音楽のレコードを聞きながらフイリップの父ブッサール氏のヨットで幸福の島へ脱出し、自分たちだけの楽園を築こうと相談するしかし、燃料と食糧と金はどうして工面したらいいだろう？五人はありったけの小使いをはたいたがそれだけでは何の足しにもならない。そこで彼等は小説や映画によくある手段を使って、女たらしのジャツクをリリアンヌのピチピチした若々しさで釣らせようとするリリアンヌはうまくジャツクをだまして踊りに連れ出す。彼女の合図で邸内に忍び込んだ四人は目的を達することが出来たが、見張りに立っていたジャンは巡回中の巡査に誰何され、度を失って彼を射殺してしまう。

それから数日後、ダニエルは学校へ刑事の来訪を受けた。事件の夜、モンテツソンの外に停めておいた自動車の番号から嫌疑がかゝったのである。四人は狼狽した。もし番察がダニエルを攻めたら、彼は自白するだろうか？

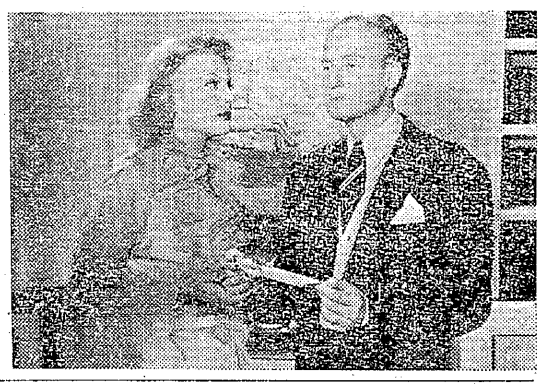
ダニエルを試してみよう。夜おそく、リシャールとフイリップは、ダニエルの家を訪れ、彼を攻めているうちに浴槽の中で遂に殺してしまう、不図したはずみがはずみを生んで彼等は二つの殺人を犯してしまつた。

一方ジャツク・モンテツソンは、リリアンヌに連れ出された夜強盗事件があり、邸内で巡査が射殺されたので、すぐさま彼女たちグループの仕業であることを感付く。

気の弱いジャンは犯した罪の恐しさに堪えきれず、毒を飲んで自殺を計つたところへ刑事が尋ねてくる。ジャンは遂にすべてを告白する。

裁判は傍聴禁止で行われた。フイリップ、リシャール、ダニエルの三人は五年の懲役に処せられたが十七才に満たないリリアンヌだけは無罪放免された。親達はいま消然と法廷を去って行く。悔恨の涙にかき暮れながら――子供達を罪悪に導いたのは親達の罪か。社会の罪か、だが、罰せられるのは子供達だけなのだ。

（セントラル）



詩

自戒

人の言葉に左右されて
動揺する私の信念の弱
さが癪だ
気にするな
気にするな
人の噂を気にするな
忘れるな　忘れるな
大衆の声忘れるな
動揺するな動揺する
な
お前の道は唯一つ

西川重生
（らくがき帳より）

賞金五百圓

【第十二回】

ヤマ・グラム

（締切　十二月九日）

【ヒント】　この人はちょっとどうかしているのかね？でもこの人の画を見たら……

【問題】

◇◇児童がいつの間にか◇◇ゴツホになりそれが◇◇から名士へと◇◇君は飛躍した津々浦々◇原や安◇を知らなくてもこのユーモラスな裸とふんどしの◇◇を知らない者はない

▲使用文字　当用漢字に限ります当用漢字ではかなりの字体が簡略になっていますが、新旧どちらの字を使っても正解です。

▲解答は順番に漢字を書くだけで結構です。

▲賞金　五百円　正解者多数の場合は抽せんにより五名に分配します。

▲正解者なき場合は、賞金は次回に加算いたします。

▲応募規定　用紙はハガキの大きさ。解答用紙には欄外解答下の三鉱労組のマークを切抜いてはつて下さい。組合員に限る。なお氏名はもちろん、支部名、職名も必ず記入のこと。

▲賞金は本人印鑑持参の上本部でお受取り下さい。残念賞は支部教宣部でお受取り願います。

▲【宛先】大牟田市不知火町二丁目七六　三池炭鉱労働組合編集部ヤマ・グラム係。

本部編集部か支部教宣部へ直接届けられても結構です。

創作

少年の日（二）

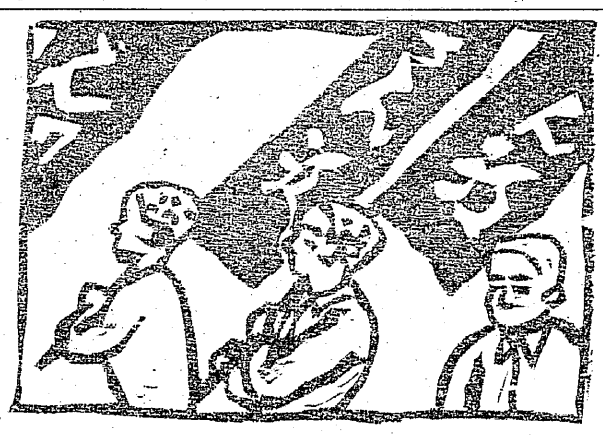
三川春野　野一夫

分院の外科室に運ばれた松男の父の体は既に死体であつた。粉炭にまみれたまゝで土偶そのまゝだつた。少年はひどいショツクで目まいを感じ気分が悪くなつた。待合室のベンチに寄つて行つた。そこに坑内帽の少年の父がいた。少年の父は生きていた怒つたような顔をし、少年に「早く帰れ」と云つた。ひどくよごれた顔だつた。少年はふと人間の命に不思議な恐怖を感じた。少年の瞳に一条の涙が光つた。それは松男の流した涙と異つたものであろう。少年はどうして自分が泣いているのかわからなかつた。

その後、一年余り松男母子は愛に住んでいたが、新しい父を得て何処かへ行つてしまつた。松男が行つてしまつてから少年はタバコ屋のぼんぼんと、バクローの沢一とよく遊んだ。二人とも少年より二つ年下の二年生だつた。タバコ屋のぼんぼんは部落きつての分限者（金持）の息子だつた。バクローの沢一は、沢一の父が生馬売買業をやつていたので、息子の沢一にまでバクローの沢一と呼んでいた。

バクローの沢一は大きくなつたら炭坑にさがると云つていた。少年は大きくなつたら画かきになると心にきめていた。死んでも父の様に炭坑なんかにさがるもんかと思うのだつた。少年は画がとても好きだつた。クラスで一番うまかつた。少年はもうクレヨンでは満足しなかつた。水彩絵具が欲しかつた。教育に無関心な母に云つても駄目だつた。少年は自分でその金を工面しようと考えた。或る日少年は毎年近くの広場に立つ野芝居の打廻りについて行く決心をした。それはハタもちだつた。午前中、役者の名前を染め抜いた色あせた旗をかついで太鼓打ちの後からついて廻ればいゝのだつた。一人では恥かしかつたので少年はタバコ屋のぼんぼんと、バクローの沢一とをさそつて決行した。

少年は芝居の入場券と、いくらかの金を遣つて家に帰つたとき、母のものすごいぎょう相を見た。家にはタバコ屋の奥様が来て、少年の母を責めているのであつた。教養のないおこりつぽい少年の母は奇麗なタバコや



の奥様の前もはばからず少年を見ると「畜生ッ」と叫んで持つていた湯呑みを投げつけた。しかし少年にはあたらず玄関の柱にあたつてくだけた少年は、一散に逃げた

その夜は少年は沢一の家の馬小屋にねた。馬小屋の上には藁が一ぱい積んであつた。少年はその藁にくるまつてねるのだつた。恐ろしさは常につきまとつていたが下に馬がいると云うことで少年はいくらか安心するのであつた。夜が更けるにしたがつて次第に少年の心は寂しさにふさがるのだつた。誰か一緒に寝てくれないかな、沢一でもいゝんだがな、としきりに考え作ら――。

（つゞく）

ラクちゃん

中村かめお

グラム回解答

40通

ソ連の官僚化の傾向に対し中国は共産党が（大衆）の前衛になつて働いている（女）も（色気）を感じぬほど素ぼくな（服装）で（生活）状態は低いが生々とした感じで独立をよろこび（建設）に心から

ず（自転）車を一億二千万台ほとほしいが日本で出来るだろうかとい つている。

（正解者なし）

2回